

2024年3月作成
(2023年12月末基準)

対象ファンド
【国内株式・債券等】

 **MUFG** 三菱UFJアセットマネジメント株式会社

プロダクトガバナンスレポート

公募ファンドの運用について



CONTENTS もくじ

ごあいさつ	2
-------	---

会社体制(会社情報・各種ガバナンス体制)

経営ビジョン／プロダクトガバナンス・ポリシー	3
コーポレートガバナンス体制	4
純資産総額／会社収益	5
運用哲学／運用体制	6
バリューマネジメント活動	7
ファンド提供価値の評価・改善対応フロー	8

カテゴリごとのファンド運用状況

当レポートでご報告するファンドについて	9
01 国内株式・大型ブレンド型	10
02 国内株式・大型成長型	16
03 国内株式・大型割安型	17
04 国内株式・中小型ブレンド型	18
05 国内株式・中小型成長型	19
06 国内株式・中小型割安型	21
07 国内株式・特定地域/セクター型	22
08 国内REIT	23
09 国内債券・中長期型	24
10 国内債券・その他	26
11 国内債券・短期型・公社債投信	27
12 国内短期金融資産	28



ごあいさつ

私たちの経営ビジョン“「あなた」と「社会」の豊かな未来に貢献する”には、お客さまの資産形成・資産運用に貢献したい、持続可能な社会の実現に貢献したい、という想いを込めています。

私たちは、当社が果たすべきフィデューシャリー・デューティーを常に探求していく不断の取り組みこそが、“お客さまの資産形成・資産運用や持続可能な社会の実現に貢献する”ことに繋がるとの考えから、フィデューシャリー・デューティーを当社従業員に求められる思考様式・行動様式として位置づけ、全従業員でこれに取り組んでいます。

商品・サービスの更なる向上に向けた取り組みの進捗状況や、社員研修によるお客さま本位の姿勢の定着度合いなどをモニタリングするため、フィデューシャリー・デューティー推進委員会を定期的開催しています。

フィデューシャリー・デューティー推進委員会の傘下に、お客さまにご満足いただける投資成果の提供を目指して、社内における取り組みの状況について包括的にモニタリングを行う「プロダクトガバナンス・サブコミッティ」を設置し、社外取締役など外部目線も取り入れた商品・サービスの品質改善に取り組んでおります。

当レポートは、当社のプロダクトガバナンス態勢についてご説明することに加えて、プロダクトガバナンスの視点で、当社が設定・運用する公募ファンドについて、お客さまにコストに見合うリターンを提供できているか、商品性に合致した運用が継続可能か等を定期的に検証し、個別ファンドごとに品質管理を行った結果をご報告するものです。

お客さまや社会が求める未来は、価値観や時代などに応じて変化しますが、私たちは、いつの時代も資産運用を通じてより良い未来づくりにアセットマネジメント会社として貢献してまいりたいと考えております。

引き続き、三菱UFJアセットマネジメントをご愛顧賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

取締役社長
横川 直

経営ビジョン／プロダクトガバナンス・ポリシー

当社が投資信託を通じ、お客さまの大切なご資金をお預かりするという役割の重要性と、社会に果たすべき責任を踏まえ、当社の“社会における存在意義”を定義した「経営ビジョン」を定めています。経営ビジョンを企業活動の拠り所としながら、特に投資信託をご活用いただくお客さまの目線に立った商品・サービスの提供・品質向上に向けて重視する事項を「プロダクトガバナンス*・ポリシー」として定め、お客さま本位の業務運営に取り組んでいます。

*「プロダクトガバナンス」とは、お客さまへ良質な商品（プロダクト）・サービスを提供するために、商品の組成・運用において適切な運営・モニタリング・品質管理を行うことを指します。

経営ビジョン

社会においてこうありたいという第三者的な視点に立ち、資産運用を社会インフラのひとつとして根付かせ、資産運用の拡大と共に成長していくとの想いを経営ビジョンとして策定しています。

「あなた」と「社会」の豊かな未来に貢献する

わたしたちは、資産運用を通じて「あなた」と「社会」をつなぎ、より良い未来に貢献します。

三菱UFJアセットマネジメントは、プロフェッショナルとして、お客さまの大切なご資金を運用する資産運用会社です。わたしたちの「経営ビジョン」には、お客さまの資産形成・資産運用に貢献したい、持続可能な社会の実現に貢献したい、という想いが込められています。

プロダクトガバナンス・ポリシー

プロダクトガバナンスにおいて、お客さまの目線を重視する考え方のもと、大切にしていること、重視していることを「商品性」「運用管理」「開示」の3つの側面からポリシーとして制定し、更なる品質向上に取り組んでいます。



商品性

現在および将来、当社の投資信託を保有いただくお客さまのニーズに沿った最適な商品の組成・提供を目指します

- 提供価値（ファンドの目的・特色）の明確化



運用管理

お客さまにご負担いただくコストに見合うリターンを確保できているかモニタリングすることにより、投資信託を通じた提供価値の維持を目指します

- 信託報酬（運用管理費用）等控除後の運用成果のモニタリングを徹底
- 運用成果の追求に向けた取組みの徹底
- ファンドの目的・特色が十分提供できていない場合、適時適切に対応



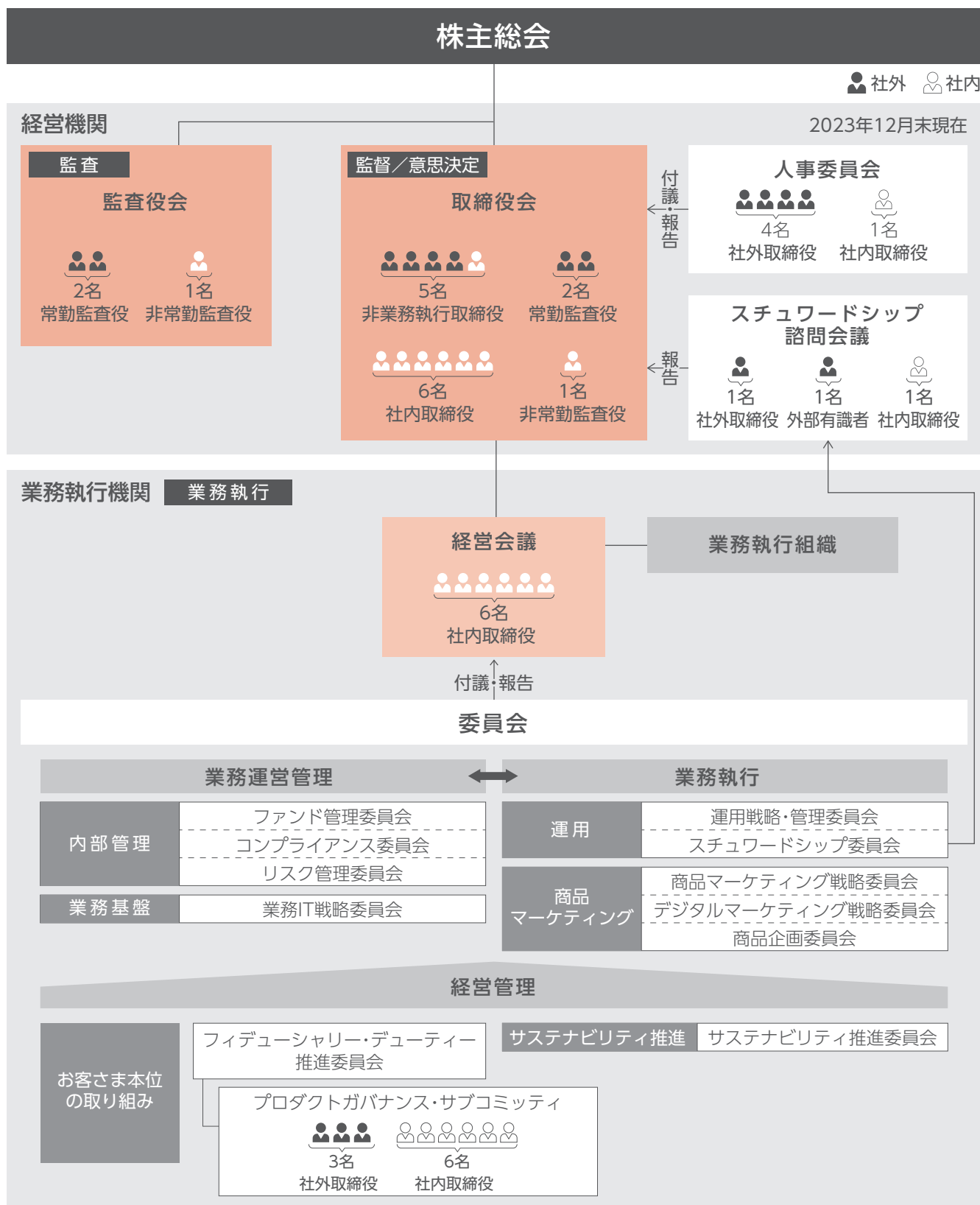
開示

お客さまの投資判断に必要な情報をご理解いただきやすく提供することを目指します

- 正確な情報をわかりやすく提供
- 様々な手段・方法で、タイムリーに情報を提供

コーポレートガバナンス体制

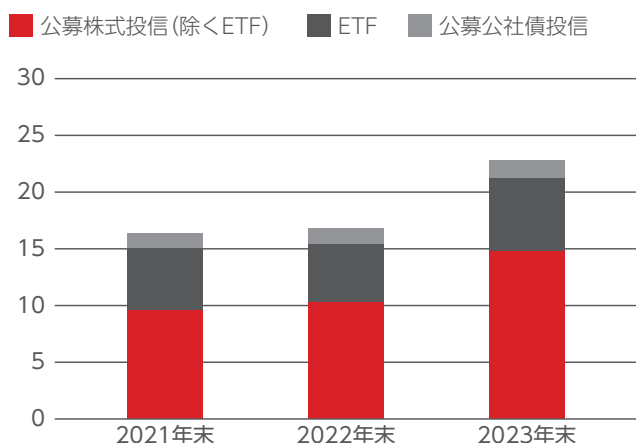
適切なプロダクトガバナンスには、適切なコーポレートガバナンス体制が必須条件と考えております。当社では経営の監督・意思決定を行う取締役会と、それを監査する監査役会のもと、経営会議傘下で業務執行に当たっています。外部目線の導入が特に必要と考える会議体には、社外取締役・外部有識者に参加いただき、コーポレートガバナンスの高度化に努めています。



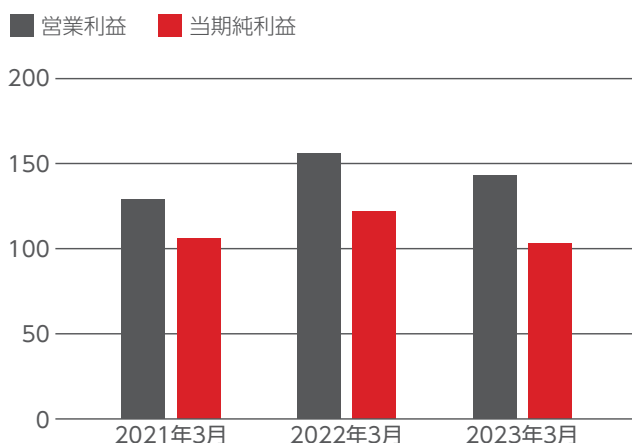
純資産総額／会社収益

ファンド運営の前提となる会社の継続性に関しまして、当社ファンドへのお客さまからのご支持に加えて資産運用の浸透・拡大も受け、2023年末時点の当社公募投資信託純資産総額は22.8兆円となりました。また、収益状況は安定的に推移しております。

当社公募投資信託純資産総額の推移(兆円)



当社収益状況の推移(億円)



TOPICS

①バリューマネジメント統括専担部署の新設

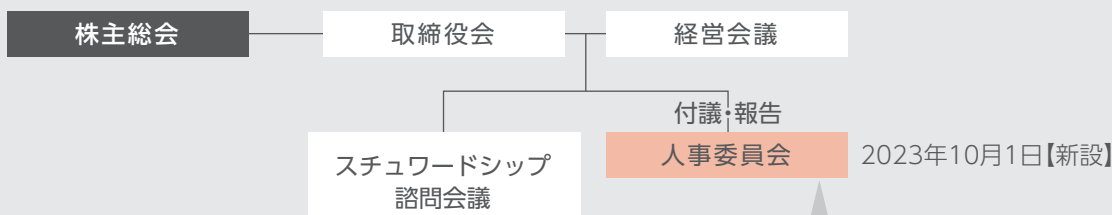
お客さまに提供している商品(ファンド)の品質管理を更に強化していくため、2024年4月にバリューマネジメント(ファンド提供価値の維持・向上への取り組み)を統括する専担部署を新設予定です。ファンドの運用品質向上・改善、当レポートの作成などについて、運用・商品担当部署の運営をサポートするとともに、進捗管理のフォローを通じ、プロダクトガバナンス態勢強化を図ります。

②人事委員会の設置

お客さまにより信頼される資産運用会社を目指し、2023年10月に取締役会の諮問機関として新たに「人事委員会」を設置しました。委員会は過半数を独立社外取締役とし、外部人材を委員の過半とし、第三者目線からの意見に基づき、当社経営層のサクセッションプラン*の策定、選任プロセスの透明性確保を図ってまいります。

*企業における後継者の要件定義や育成計画

組織概要



01 委員構成 | 3名以上かつ、その過半数を独立外取締役で構成

02 審議事項 | 社長および役付役員の
①指名(選任・解任)に関する事項 | ②後継者計画に関する事項

運用哲学／運用体制

当社の運用プロフェッショナルが、付加価値の創造、的確なリスク管理、規律ある運用プロセスなどの運用哲学に基づき、投資いただいているお客さまに最良の投資成果をお届けできるように努めています。また運用部門では、組織的で再現性の高い運用体制を構築し、サステナブル投資の観点から社会課題解決に資するスチュワードシップ活動や、テクノロジーを活用した競争力ある効率的な取引執行に取り組むなど、お客さまにご満足いただける投資成果を安定的かつ継続的に提供することを目指しています。

運用哲学

01 付加価値の創造

最良の運用成果を得るためには、徹底した調査・分析と適切な運用判断による付加価値の創造が必要です。私たちは、徹底した情報収集、詳細な分析、適切な判断を通じて付加価値の獲得を目指します。

02 的確なリスク管理

運用においては、意図したリスクを取り、意図しないリスクを排除することが必要です。私たちは、的確なリスク管理を実践し、効率的に付加価値の獲得を目指します。

03 規律ある運用プロセス

規律と一貫性のあるプロセスが、運用の質的向上につながります。私たちは、チームワークを重視し、かつ「Plan→Do→See」に裏打ちされた規律あるプロセスによって、運用の一貫性を確保します。

04 適切な情報開示

お客さまに信頼していただきながら、ご期待に沿った資産運用を行うためには、情報の開示が不可欠です。私たちは、運用の状況と運用に対する考え方を適切にお伝えすることにより、お客さまの信頼獲得を目指します。

運用体制

(2023年12月末現在)

運用部門					
部門長 高鍋 朗 運用経験年数 30年					
運用部	運用責任者 (運用経験年数)	運用対象	FM人員 (運用経験年数)	担当運用資産* (十億円)	
運用担当	戦略運用部	加納 良樹 (27年)	主としてバランス型ファンド・計量的手法等を利用したファンドの運用	20名 (平均12年)	554
	株式運用部	森 博 (26年)	主として内外株式の運用	41名 (平均19年)	848
	債券運用第一部	氏原 圭作 (34年)	主として内外債券の運用	10名 (平均19年)	1,011
	債券運用第二部	道下 哲也 (21年)	主として内外債券の運用	21名 (平均12年)	2,922
	インデックス運用部	石崎 健 (16年)	主として全資産のインデックス運用	27名 (平均7年)	19,326
	外部委託運用部	笹井 泰夫 (27年)	主として外部運用会社との提携ファンドの運用	32名 (平均9年)	6,941
運用企画部	運用に関する施策企画、運用モニタリングおよびファンドマネジャーのパフォーマンス評価				
サステナブル投資推進部	サステナブル投資に関する業務および施策企画				
トレーディング部	有価証券等の発注およびファンド余資運用				

* 国内籍の公募および私募投信、投資一任を対象に集計

バリューマネジメント活動

プロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、ファンド提供価値の維持・向上へ継続的に取り組んでいます(バリューマネジメント活動)。運用・商品担当部署においてはファンドの各種運営とともに、ファンドの品質管理・改善を自律的に行っております。それに加え、バリューマネジメント統括部署においてファンド提供価値の評価を行い、必要に応じて運用あるいは商品性の改善を促すなど、お客さまの信頼に応える商品提供を心掛けております。

お客さまの信頼に応える商品提供

バリューマネジメント活動 (ファンド提供価値の維持・向上への取り組み)

運用・商品担当部署による 自律的な品質管理

運用状況のモニタリング・
商品性の確認



日常的な品質改善

バリューマネジメント統括部署が 指揮する組織的な品質管理

ファンド提供価値の評価



要改善ファンドの改善*・
フォローアップ

*改善策の立案・実行はバリューマネジメント統括部署からの指示に基づき、運用・商品担当部署が行います。



ファンド提供価値の評価・改善対応フロー

当社が設定・運用する公募ファンド(MRF、単位型を除く)を対象に、ファンド提供価値の評価を行います。その結果、運用や商品性に改善を要すると考えられるファンド(要改善ファンド)については改善策を策定します。ファンド提供価値の評価・改善対応は以下のフローに基づいて行っており、当レポートでは、評価結果および改善対応の状況についてご報告いたします。

STEP 01

パフォーマンス評価

- 当社が設定・運用する公募ファンド(MRF、単位型を除く)について、コスト控除後のリターン*¹を用いて、当社ファンドと同じカテゴリ*²に所属する競合他社ファンドのなかでの相対的な順位を確認します。
- 競合他社ファンドとの比較は5年、10年、設定来などの複数期間*³で行います。

*1 お客さまにご負担いただくコストに見合うリターンを確保できているか確認するため、分配金再投資換算の基準価額を使って信託報酬(運用管理費用)等控除後のリターンを算出します。

*2 恣意性を排除するため、外部評価機関であるMorningstarによるモーニングスター・カテゴリを使用します。モーニングスター・カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

*3 インデックスファンドについては、特定指数と同じ値動きを目指す商品性であること等から、対象指数との期間1年の連動性も含めて評価します。

STEP 02

ファンド提供価値の評価

- STEP1のパフォーマンス評価において、パフォーマンスの相対順位が一定水準以下となる競合他社比で劣後しているファンドについて、多角的な視点からより詳細な分析を行います。
- パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性などの分析を行い、お客さまにご負担いただいたコストに見合うリターンが提供できているか、商品性に合致した運用が継続可能かなどの観点からファンド提供価値を評価します。

STEP 03

要改善ファンドの特定・改善策の検討

- STEP2の分析により、運用や商品性に改善すべき課題が特定された場合には、ファンド提供価値の向上を目的として、当該課題を解決すべく改善策を検討します。

STEP 04

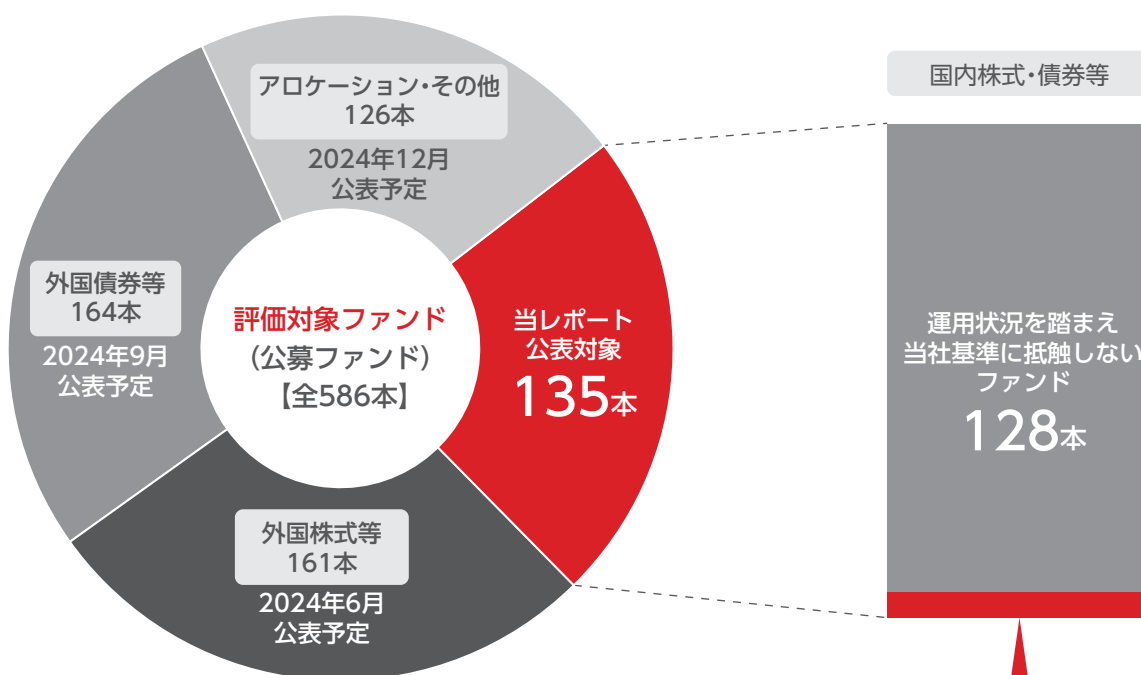
要改善ファンドのフォローアップ

- STEP3で策定した改善策が効果を発揮し改善が図られているかモニタリングを行い、お客さまに十分な価値提供ができているか確認できるまでフォローアップを継続します。
- 改善策やその後の進捗状況については、当レポートでお客さまに開示します。

当レポートでご報告するファンドについて

当レポートでは評価対象ファンドを「国内株式・債券等」、「外国株式等」、「外国債券等」、「アロケーション・その他」の4つに分類し、各分類ごとに順次公表いたします。今回は「国内株式・債券等」に分類する135本のファンドを対象とし、評価した結果、以下7本のファンドについて要改善ファンドに該当すると判断いたしました。分析結果や改善に関する取り組み状況については、モーニングスター・カテゴリ別に次ページからご説明いたします。

※「国内株式・債券等」、「外国株式等」、「外国債券等」、「アロケーション・その他」の分類はモーニングスター・カテゴリを基に当社が行います。モーニングスター・カテゴリで国内株式、国内REIT、国内債券、国内短期金融資産に属するファンドを「国内株式・債券等」に分類しています。
 ※各ファンドの分析はモーニングスター・カテゴリ内における比較により行います。各ファンドの所属カテゴリや公表予定時期については当社ホームページ内「プロダクトガバナンスレポート」ページ上(<https://www.am.mufg.jp/corp/product-governance-report/>)のエクセルファイルをご確認ください。
 ※モーニングスター・カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。



要改善ファンド 7本

ファンド名	設定日	掲載ページ
日本株アジア戦略ファンド(愛称:アジア・パワー)	2009/11/06	12
日本株セレクト・オープン“日本新世紀”日本株インカム・ファンド	2000/03/31	13
三菱UFJ SRIファンド(愛称:ファミリー・フレンドリー)	2004/12/03	14
三菱UFJ システムバリューオープン(愛称:プロフェッサー)	2001/03/30	15
いちよし 公開ベンチャー・ファンド	2000/11/30	20
いちよし ジャパン・ベンチャー・ファンド	2017/11/17	20
三菱UFJ <DC>日本債券ファンド	2001/12/07	25

※各種分析に使用したデータおよび本ページ以降に掲載のデータは2023年12月末基準です。

01 国内株式・大型ブレンド型

対象ファンド数 当社51ファンド/業界全体456ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド51本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド4本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(各ファンドの運用状況については当社ホームページ内の個別ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
27.6	10.7	12.1	8.2	0.84

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

株式時価総額、成長性、株価の面からみて日本の株式市場を代表する株式を主な投資対象とする。日本の株式市場の時価総額上位70%の株式が大型と分類される。当カテゴリは、成長または割安のいずれの特性も優勢でないポートフォリオに適用される。国内株式・大型ブレンド型のポートフォリオは、産業全般にわたる日本企業の株式に広く投資する傾向にあり、その結果として東証株価指数(TOPIX)に似たリターンを示す。

当社ファンド一覧(網掛けは要改善ファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	<DC>インデックスファンド225	2001/11/14	64	■
2	<DC>日本株スタイル・ミックス・ファンド(愛称:総合力)	2001/11/14	253	■
3	eMAXIS JPX日経400インデックス	2014/04/01	75	■
4	eMAXIS Slim 国内株式(TOPIX)	2017/02/27	1,044	■
5	eMAXIS Slim 国内株式(日経平均)	2018/02/02	462	■
6	eMAXIS TOPIXインデックス	2009/10/28	206	■
7	eMAXIS ジャパンESGセレクト・リーダーズインデックス	2018/10/22	13	■
8	eMAXIS 日経225インデックス	2009/10/28	480	■
9	MAXIS JAPAN 設備・人材積極投資企業200上場投信(愛称:前向き日本)	2016/06/27	53	■
10	MAXIS JPX日経インデックス400上場投信	2014/02/05	7,244	■
11	MAXIS カーボン・エフィシエント日本株上場投信	2020/02/05	40	■
12	MAXIS トピックス上場投信	2009/05/14	30,116	■
13	MAXIS トピックス(除く金融)上場投信	2019/01/10	22	■
14	MAXIS 日経225上場投信	2009/02/24	22,030	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内株式・大型ブレンド型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額 (億円)	当社HP
15	インデックス・タイプ(ミリオン)	1987/11/27	33	■
16	インデックスファンド225	1986/05/23	753	■
17	国内株式インデックス・オープン(ラップ向け)	2019/12/16	552	■
18	国内株式セレクション(ラップ向け)	2017/03/13	395	■
19	つみたて日本株式(TOPIX)	2017/08/16	242	■
20	つみたて日本株式(日経平均)	2017/08/16	795	■
21	トピックスオープン	1990/03/15	110	■
22	日本株アジア戦略ファンド(愛称:アジア・パワー)	2009/11/06	17	■
23	日本株スタイルセレクトオープン(ビッグ・ウイング・ワン) 三菱UFJスタイルセレクト・ブレンドファンド(愛称:潮流)	2000/05/02	17	■
24	日本株セレクト・オープン“日本新世紀”日本株インカム・ファンド	2000/03/31	57	■
25	日本株セレクト・オープン“日本新世紀”日本株スタイル・ミックス・ファンド	2000/03/31	11	■
26	日本株セレクト・オープン“日本新世紀”日本株バリュー・ファンド	2000/03/31	18	■
27	日本好配当利回り株オープン(3ヵ月決算型)	2005/06/07	148	■
28	ファンド・マネジャー(国内株式)	2007/10/31	16	■
29	三菱UFJ <DC>TOPIX・ファンド	2001/10/18	45	■
30	三菱UFJ DC国内株式インデックスファンド	2003/09/30	1,708	■
31	三菱UFJ DCジャパンESGセレクト・リーダーズインデックス	2020/08/31	10	■
32	三菱UFJ DCトピックスオープン	2002/11/29	229	■
33	三菱UFJ DC日本株ESGアクティブファンド(愛称:そだてるみらい)	2020/08/31	7	■
34	三菱UFJ DC年金インデックス(国内株式)	2018/09/26	114	■
35	三菱UFJ SRIファンド(愛称:ファミリー・フレンドリー)	2004/12/03	20	■
36	三菱UFJ TOPIX・ファンド	2001/03/26	160	■
37	三菱UFJ インデックス225オープン	1998/11/09	1,276	■
38	三菱UFJ インデックス225オープン(確定拠出年金)	2002/05/27	175	■
39	三菱UFJ システムバリューオープン(愛称:プロフェッサー)	2001/03/30	91	■
40	三菱UFJ トピックスインデックスオープン	2000/04/13	195	■
41	三菱UFJ トピックスオープン	2001/03/30	29	■
42	三菱UFJ トピックスオープン(確定拠出年金)	2001/12/28	102	■
43	三菱UFJ 日本株アクティブオープン(愛称:ファール先生)	1998/06/30	93	■
44	三菱UFJ 日本株アクティブオープン(確定拠出年金) (愛称:ファール先生(確定拠出年金))	2002/05/27	300	■
45	三菱UFJ 日本株アクティブ・ファンド(愛称:凄腕)	2000/10/31	91	■
46	三菱UFJ 日本株グロースオープン(愛称:ステージ21)	1999/10/29	28	■
47	三菱UFJ 日本株式オープン(愛称:選・人・力)	2000/04/28	23	■
48	三菱UFJ バリューオープン	2000/09/29	131	■
49	夢楽章 日経平均オープン	1997/12/01	58	■
50	ラップ向けインデックスf 国内株式	2021/04/16	113	■
51	割安株ジャパン・オープン	2011/06/17	168	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。

各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内株式・大型ブレンド型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

日本株アジア戦略ファンド<愛称:アジアン・パワー>

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。
<https://www.am.mufg.jp/fund/250958.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- わが国の株式を主要投資対象とし、アジア地域の経済成長の恩恵を受けることによって中長期的な利益成長が期待できる企業の株式を選定することにより、値上がり益の獲得をめざします。株式の組入比率は、原則として高位を保ちます。
- アジア地域でも特に需要増加が見込まれる「資源」、「インフラ」、「消費」、「環境」の分野を中心に投資を行います。特定のテーマ・業種に絞って投資を行いますので、これらの動向によっては、株式市場全体の動きとファンドの基準価額の動きが大きく異なることがあります。
- 運用にあたっては、企業訪問等を通じた個別銘柄分析に基づくボトムアップ・アプローチにより銘柄選定を行います。アジア地域において既に収益をあげている企業に加え、将来的にアジア地域での収益拡大が期待できる企業も投資対象とします。

2 投資成果(運用成績)の悪化要因

- 過去3年、過去5年の運用期間においてカテゴリ平均を下回っています。
- アジアの経済成長から恩恵を受ける銘柄に投資するという当ファンドの商品コンセプトは有効であったものの、運用における銘柄選定には課題があったと認識しています。
- 具体的には、特に2018年から2019年にかけて運用成績が低迷する局面がありましたが、景気減速懸念や米中関係悪化などの不透明な投資環境下で当初の投資判断から変更を余儀なくされることで銘柄の保有期間が短くなり、長期で大きく上昇する銘柄の恩恵を十分に享受することが出来ておりませんでした。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 当ファンドは2020年4月に運用担当者の交代を実施しています。運用担当者の交代以降、当ファンドでは運用改善策として、チームリサーチをより活用した銘柄選定を行っています。
- 当ファンドは2024年10月15日に満期償還を予定していますが、運用成績については過去1年では改善傾向にあると認識しております。運用改善策の有効性を定期的にモニタリングしながら、引き続き投資成果の向上に向けた取り組みを継続してまいります。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、国内株式・大型ブレンド型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンを過去1年、過去10年では上回っておりますが、過去3年、過去5年では下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
日本株アジア戦略ファンド	2009/11/06	17	33.5	9.2	11.2	8.7	11.5	1.60
国内株式・大型ブレンド型カテゴリ平均			27.6	10.7	12.1	8.2	9.4	0.84

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮していません。

※国内株式・大型ブレンド型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

日本株セレクト・オープン“日本新世紀” 日本株インカム・ファンド

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。
<https://www.am.mufg.jp/fund/355016.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- わが国の株式を主要投資対象とし、配当利回りが市場平均を上回る銘柄の中から、株価の値上がり益が期待できる銘柄を厳選して投資することにより、高水準の配当収入と中長期的な値上がり益の獲得をめざします。
- 配当利回り水準、配当の実現性や財務の健全性等を勘案し、組入銘柄は適宜入れ替えます。

2 投資成果(運用成績)の悪化要因

- 主に過去10年の運用期間において、参考指数である東証株価指数(TOPIX)(配当込み)*を下回る状況となりました。
 - 同期間において、高配当利回り銘柄全体のパフォーマンスはTOPIX(配当込み)をやや上回るものであったことを踏まえると、当ファンドの運用手法に課題があったと考えています。
 - 具体的には、これまで当ファンドは同じ運用チームが担当する他ファンドと割安度を判断するプロセスを一部共有しておりましたが、売却基準が異なるために、当ファンドにおいて一部の投資銘柄で上昇局面を十分に享受出来ないケースが生じることがありました。
- *当ファンドの参考指数は、2024年4月20日に「TOPIX(配当込み)」に変更を予定しており、当レポートでは変更後の配当込み指数を参考指数として使用しております。詳細については、以下のプレスリリースをご確認いただけます。
https://www.am.mufg.jp/corp/press/_icsFiles/afieldfile/2023/08/23/release_230823.pdf

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 割安度を判断するプロセスを一部共有することを見直し、当ファンド独自の運用プロセスの強化を図ります。
- 具体的には、財務余力の大きい企業の増配余力を捉える可能性を高めるために財務健全性の高い企業を選定する定量スクリーニングを運用プロセスに取り入れる予定です。
- 最終的な投資判断にあたっては、運用担当者が配当政策、資金配分計画、業績動向などを分析し、予想される配当支払いの実現性を検討した上で行ってまいります。
- 当ファンドは2024年12月10日に満期償還を予定していますが、今回の運用改善策の有効性を定期的にモニタリングしながら、投資成果の向上に向けた取り組みを継続してまいります。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、国内株式・大型ブレンド型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンや参考指数であるTOPIX(配当込み)を過去1年、過去3年は上回っておりますが、過去5年、過去10年では下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
日本株セレクト・オープン“日本新世紀” 日本株インカム・ファンド	2000/03/31	57	29.5	15.7	11.0	7.5	7.5	1.65
国内株式・大型ブレンド型カテゴリ平均			27.6	10.7	12.1	8.2	2.8	0.84
東証株価指数(TOPIX)(配当込み)			28.3	12.1	12.3	8.6	3.2	

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮していません。

※国内株式・大型ブレンド型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※TOPIX(配当込み)は、国内株式市場の値動きをご説明するために記載しております。指数については巻末の【当資料で使用している指数について】をご覧ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

三菱UFJ SRIファンド<愛称:ファミリー・フレンドリー>

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。
<https://www.am.mufg.jp/fund/250452.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、「ファミリー・フレンドリー企業」として高く評価され、かつ株価が本来あるべき価格(理論株価)に対して割安と判断される銘柄に投資し、信託財産の長期的な成長を目標として運用を行います。ただし、ポートフォリオのリスク管理の観点から、ファンドマネジャーの判断により、前記以外の銘柄を組入れることがあります。
- ファンドにおいて「ファミリー・フレンドリー企業」とは「仕事と生活を両立でき、多様で柔軟な働き方を選択できる企業」をいいます。ファミリー・フレンドリー企業としての評価は、グッドバンカー社からの投資助言に基づいて行います。
- 個別銘柄の理論株価および理論株価に対する割安度の測定については、三菱UFJ信託銀行と当社グループの投資理論研究機関「MTEC」(三菱UFJトラスト投資工学研究所)が共同開発した「理論株価モデル」を活用します。
- 当ファンドは「サステナブル・ファンド」です。詳細については、委託会社のホームページ(<https://www.am.mufg.jp/corp/houshin/csr/index.html>)をご覧ください。

2 投資成果(運用成績)の悪化要因

- 過去5年以上の下表の運用期間において、参考指数である東証株価指数(TOPIX)(配当込み)を下回る投資成果となりました。2010年以降の株式市場で、割安度に着目した運用手法が株式市場全体の値動きに対して劣後する局面が発生しました。そのような環境下において、当ファンドが活用していた「理論株価モデル」の有効性が低下したことや、ややリスクを抑えた運用を行ったことなどが運用成績の悪化要因となりました。
- 過去1年、過去3年では人的資本投資への関心の高まりなどから「ファミリー・フレンドリー企業」への投資は運用成績の向上に一定程度寄与したものの、割安度に着目した運用手法の長期にわたる劣後を上回る投資成果は獲得できませんでした。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 割安度に着目した投資のパフォーマンスは、過去1年、過去3年では参考指数であるTOPIX(配当込み)を上回っており復調の兆しが見えつつあると考えています。また、その投資環境認識を踏まえ、当ファンドではパフォーマンスの悪化要因となった「理論株価モデル」の有効性改善に向けて、割安度との相性の良い投資指標の追加や、運用制約としていた要件を一部緩和することによるリスク水準の引き上げを実施し、投資成果の向上を目指した運用改善を実施しています。
- 今後も相場動向に応じたモデルの有効性を検証し、引き続きパフォーマンスの向上に向けたモデル改良を実施してまいります。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、国内株式・大型ブランド型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンや参考指数であるTOPIX(配当込み)を過去1年、過去3年は上回っておりますが、過去5年、過去10年では下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
三菱UFJ SRIファンド	2004/12/03	20	34.3	13.6	10.9	6.4	4.4	1.65
国内株式・大型ブランド型カテゴリ平均			27.6	10.7	12.1	8.2	6.0	0.84
東証株価指数(TOPIX)(配当込み)			28.3	12.1	12.3	8.6	6.2	

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮しておりません。

※国内株式・大型ブランド型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※TOPIX(配当込み)は、国内株式市場の値動きをご説明するために記載しており、当ファンドの参考指数です。指数については巻末の【当資料で使用している指数について】をご覧ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

三菱UFJ システムバリューオープン<愛称:プロフェッサー>

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。
<https://www.am.mufg.jp/fund/531901.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- わが国の株式を主要投資対象とし、本来あるべき価格(理論株価)に対する割安度に着目した銘柄選定を行うバリュー型のファンドです。
- TOPIX(東証株価指数)(配当込み)をベンチマーク(運用成果の目標基準)として、これを中長期的に上回る投資成果をめざします。
- 各銘柄の理論株価および理論株価に対する割安度の測定については、三菱UFJ信託銀行グループが独自に開発した「理論株価モデル」を活用します。
- ファンドの運用において活用される「理論株価モデル」は、三菱UFJ信託銀行と同社グループの投資理論研究機関「MTEC」が共同開発したもので、わが国の株式を対象に、本来あるべき価格(理論株価)に対する割安度を分析するシステムです。
- ポートフォリオの構築にあたっては、割安度を最大化しつつ、業種構成や規模構成など割安度以外の要素についてはベンチマークと同程度となるように、最適化を図ります。
- 株式の実質組入比率は高位を基本とします。

2 投資成果(運用成績)の悪化要因

- 主に過去5年以上の運用期間において、ベンチマークであるTOPIX(配当込み)を下回る投資成果となりました。2010年以降の株式市場で、割安度に着目した運用手法が株式市場全体の値動きに対して劣後する局面が発生しました。そのような環境下において、当ファンドが活用する「理論株価モデル」の有効性が低下したことが運用成績の悪化要因となりました。
- そのような環境が続いたことを踏まえ、ややリスクを抑えた運用を行った結果、株価上昇局面でTOPIX(配当込み)を上回る投資成果を獲得できませんでした。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 割安度に着目した投資の過去1年のパフォーマンスはベンチマークを上回っており、足下では復調の兆しが見えつつあると考えています。また、その投資環境認識を踏まえ、当ファンドではパフォーマンスの悪化要因となった「理論株価モデル」の有効性改善に向けて、割安度との相性の良い投資指標の追加や、リスク水準の引き上げを実施し、投資成果の向上を目指した運用改善を実施しています。
- 今後も相場動向に応じたモデルの有効性を検証し、引き続きパフォーマンスの向上に向けたモデル改良を実施してまいります。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、国内株式・大型ブレンド型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンやベンチマークであるTOPIX(配当込み)を過去1年、過去3年は上回っておりますが、過去5年、過去10年、設定来では下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
三菱UFJ システムバリューオープン	2001/03/30	91	29.2	12.1	8.4	5.0	2.7	1.65
国内株式・大型ブレンド型カテゴリ平均			27.6	10.7	12.1	8.2	4.4	0.84
東証株価指数(TOPIX)(配当込み)			28.3	12.1	12.3	8.6	4.6	

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮しておりません。

※国内株式・大型ブレンド型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※TOPIX(配当込み)は、国内株式市場の値動きをご説明するために記載しており、当ファンドのベンチマークです。指数については巻末の【当資料で使用している指数について】をご覧ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

02 国内株式・大型成長型

対象ファンド数 当社15ファンド/業界全体74ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド15本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(各ファンドの運用状況については当社ホームページ内の個別ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
22.3	4.8	11.9	8.4	1.42

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

株式時価総額の規模が大きく、同規模の株式に比べ成長性が相対的に高い日本の株式を主な投資対象とする。日本の株式市場の時価総額上位70%の株式が大型と分類される。また、利益、売上、純資産、キャッシュフローの成長性が高く、バリュエーションが割高な(株価収益率が高く、配当利回りが低い)株式が成長型と分類される。このカテゴリに分類されるポートフォリオの多くは急成長を遂げている業種に投資する。

当社ファンド一覧(要改善ファンドへの該当はなし)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	eMAXIS JAPAN クオリティ150インデックス	2015/11/06	21	■
2	J・エクイティ(愛称:K2000)	2000/04/07	48	■
3	J・エクイティ(DC年金)	2002/09/30	3	■
4	これぞ、日本株	2018/11/16	7	■
5	日本株スタイルセレクトオープン(ビッグ・ウイング・ワン) 三菱UFJスタイルセレクト・グロースファンド(愛称:飛躍)	2000/05/02	14	■
6	日本株セレクト・オープン“日本新世紀”日本株グロース・ファンド	2000/03/31	6	■
7	日本経済再生戦略株式ファンド(愛称:セブン・シスターズ)	2014/05/01	12	■
8	日本厳選プレミアム株式オープン(年2回決算型)	2014/01/20	99	■
9	三菱UFJ DC厳選日本成長株オープン(愛称:厳選ニッポン)	2001/12/07	19	■
10	三菱UFJ グローバルイノベーション(愛称:ニュートン)	2000/06/30	49	■
11	三菱UFJ 日本株オープン「35」	1999/03/24	66	■
12	三菱UFJ 日本成長株オープン(愛称:ブルーム)	1999/04/28	19	■
13	三菱UFJ 優良日本株ファンド(愛称:優くん(ユウクン))	2014/12/11	20	■
14	未来イノベーション成長株ファンド	2018/03/27	182	■
15	優良日本株ファンド(愛称:ちから株)	2009/03/18	232	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内株式・大型成長型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

03 国内株式・大型割安型

対象ファンド数 当社4ファンド／業界全体25ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド4本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。
(各ファンドの運用状況については当社ホームページ内の個別ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
31.9	21.1	13.2	8.5	1.01

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

株式時価総額の規模が大きく、同規模の株式に比べ株価が相対的に割安、または成長性が相対的に低い日本の株式を主な投資対象とする。日本の株式市場の時価総額上位70%の株式が大型と分類される。また、バリュエーションが割安で(株価収益率が低く、配当利回りが高い)、利益率、売上成長率、純資産価値、キャッシュフローの成長性が低い株式が割安型と分類される。

当社ファンド一覧(要改善ファンドへの該当はなし)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	MAXIS 高配当日本株アクティブ上場投信	2023/09/06	56	■
2	システム・オープン	1983/05/24	64	■
3	日経平均高配当利回り株ファンド	2018/11/09	504	■
4	日本株スタイルセレクトオープン(ビッグ・ウイング・ワン) 三菱UFJスタイルセレクト・バリューファンド(愛称:変革)	2000/05/02	4	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内株式・大型割安型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

04 国内株式・中小型ブレンド型

対象ファンド数 当社3ファンド／業界全体77ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド3本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。
(各ファンドの運用状況については当社ホームページ内の個別ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト (%)
過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	
21.9	9.5	11.0	8.7	1.58

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

株式時価総額、成長性、株価の面からみて日本の株式市場を代表する株式を主な投資対象とする。日本の株式市場のうち下位30%の株式が中小型と分類される。当カテゴリは、成長または割安のいずれの特性も優勢でないポートフォリオに適用される。

当社ファンド一覧(要改善ファンドへの該当はなし)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額 (億円)	当社HP
1	eMAXIS JPX日経中小型インデックス	2017/06/12	7	■
2	MAXIS JPX 日経中小型株指数上場投信	2017/04/04	3	■
3	三菱UFJ 好配当日本株ファンド(2ヵ月決算型)	2006/02/01	58	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。

各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内株式・中小型ブレンド型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

05 国内株式・中小型成長型

対象ファンド数 当社11ファンド/業界全体107ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド11本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド2本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(各ファンドの運用状況については当社ホームページ内の個別ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
12.7	0.1	7.9	8.8	1.56

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

中小規模の株式のうち、同規模の株式に比べ成長性が相対的に高い日本の株式を主な投資対象とする。日本の株式市場のうち下位30%の株式が中小型と分類される。また、利益、売上、純資産、キャッシュフローの成長性が高く、バリュエーションが割高な(株価収益率が高く、配当利回りが低い)株式が成長型と分類される。このカテゴリに分類されるポートフォリオの多くは急成長を遂げている業種に投資する。

当社ファンド一覧(網掛けは要改善ファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	IPOリサーチ・オープン(愛称:リターン・エース)	2018/04/27	12	■
2	JAPANスタンダードオープン	1994/10/14	19	■
3	Jオープン(小型株)	1994/06/30	52	■
4	いちよし 公開ベンチャー・ファンド	2000/11/30	9	■
5	いちよし ジャパン・ベンチャー・ファンド	2017/11/17	116	■
6	ジャパニーズ・ドリーム・オープン	2000/02/29	39	■
7	成長株ジャパン・オープン	2011/06/17	90	■
8	中小型成長株ジャパン・オープン	2013/08/02	29	■
9	日本株セレクト・オープン“日本新世紀”日本・小型株・ファンド	2000/03/31	19	■
10	ファンド・オブ・オールスター・ファンズ	2000/09/28	76	■
11	三菱UFJ ジャパン・アクティブ・プラス	2006/09/20	15	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。

※各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内株式・中小型成長型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

いちよし 公開ベンチャー・ファンド/いちよし ジャパン・ベンチャー・ファンド

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。
<https://www.am.mufg.jp/fund/149017.html> / <https://www.am.mufg.jp/fund/253036.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- 信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。
- わが国の金融商品取引所に上場されている中小型株式の中から、企業の成長性が高く、かつ株価水準が割安であると判断される銘柄を中心に投資します。公開ベンチャーを中心とした投資を行います。
- 中小型株に特化した、いちよしアセットマネジメント株式会社の運用アドバイスを受けます。いちよしアセットマネジメントは、中小型および新興の成長企業の調査に特化したいちよし経済研究所のリサーチ力を活用し、公開ベンチャーに特化した運用アドバイスを行います。
- ボトムアップ・アプローチによる銘柄選定を行い、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。いちよしアセットマネジメントの担当ファンドマネジャー、いちよし経済研究所の中小型株専門アナリストによる徹底したリサーチ力を活用して、三菱UFJアセットマネジメントが銘柄選定を行います。

2 投資成果(運用成績)の悪化要因

- 下表に記載の運用期間において、カテゴリ平均や参考指数であるRUSSELL/NOMURA Small Cap インデックス(配当込み)を下回っています。
- 2021年後半以降、米国の利上げ懸念の高まりなどからグロース相場からバリュー相場への大きな局面変化が起こり、株式市場では特に成長期待の高い銘柄や時価総額の小さい銘柄が目立って下落しました。
- 当ファンドにおいては、商品コンセプトの通り中長期的な目線で投資を行っておりましたが、当ファンドが中心として投資を行う公開ベンチャーは一般的に市場平均より成長性が高く、時価総額が小さい特性をもつため、上記のような市場環境の変化による影響を受けてパフォーマンスが悪化いたしました。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 市場環境の変化による影響に配慮しつつ、商品コンセプトに従って中長期的な見通しが有望な銘柄選定を継続いたします。
- 足下では、いちよしアセットマネジメントの運用チームによる銘柄の調査体制の強化や、いちよし経済研究所との連携向上等を通じ、より希少性が高く中長期的な成長が見込めると考える銘柄の発掘に注力しております。
- 今後は、運用改善策の有効性のモニタリングをしながら、いちよしアセットマネジメントとともに引き続き投資成果の向上に向けた取り組みを継続してまいります。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、国内株式・中小型成長型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンや参考指数であるRUSSELL/NOMURA Small Cap インデックス(配当込み)を多くの期間で下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
いちよし 公開ベンチャー・ファンド	2000/11/30	9	▲1.7	▲9.6	1.0	6.8	4.4	1.87
いちよし ジャパン・ベンチャー・ファンド	2017/11/17	116	▲1.7	▲9.5	1.1	—	▲3.2	1.87
国内株式・中小型成長型カテゴリ平均			12.7	0.1	7.9	8.8	5.3	1.56
RUSSELL/NOMURA Small Cap インデックス(配当込み)			23.5	10.6	9.5	8.5	6.6	

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しており、カテゴリ平均およびRUSSELL/NOMURA Small Capインデックス(配当込み)の設定来リターンは「いちよし 公開ベンチャー・ファンド」の設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮しておりません。

※国内株式・中小型成長型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※RUSSELL/NOMURA Small Cap インデックス(配当込み)は、国内の中小型株式市場の値動きをご説明するために記載しており、当ファンドの参考指数です。指数については巻末の【当資料で使用している指数について】をご覧ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

06 国内株式・中小型割安型

対象ファンド数 当社1ファンド/業界全体16ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド1本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(各ファンドの運用状況については当社ホームページ内の個別ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
31.1	17.7	12.1	9.6	1.26

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

中小規模の株式のうち、同規模の株式に比べ株価が相対的に割安、または成長性が相対的に低い日本の株式を主な投資対象とする。日本の株式市場のうち下位30%の株式が中小型と分類される。また、バリュエーションが割安で(株価収益率が低く、配当利回りが高い)、利益率、売上成長率、純資産価値、キャッシュフローの成長性が低い株式が割安型と分類される。

当社ファンド一覧(要改善ファンドへの該当はなし)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	好配当優良株ジャパン・オープン	2012/05/18	84	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内株式・中小型割安型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

07 国内株式・特定地域/セクター型

対象ファンド数 当社2ファンド/業界全体76ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド2本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(各ファンドの運用状況については当社ホームページ内の個別ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
25.2	9.4	10.1	7.5	1.01

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

ある特定の産業や業種、セクター、地域などに関連した日本企業の株式を主な投資対象とする。このカテゴリに分類されるポートフォリオは、分散されず特定の産業や業種に集中投資される傾向にあるため、市場全体の銘柄が投資対象となっているインデックスと比較すると、金利、為替、景気の変動などの特定のマクロ経済の影響を受けやすい。

当社ファンド一覧(要改善ファンドへの該当はなし)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	MAXIS S&P東海上場投信	2011/02/21	59	■
2	日本エネルギー関連株式オープン(愛称:プロジェクトE)	2015/09/25	125	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内株式・特定地域/セクター型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

08 国内REIT

対象ファンド数 当社13ファンド/業界全体140ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド13本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。
(各ファンドの運用状況については当社ホームページ内の個別ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
▲0.7	4.0	4.0	5.1	0.66

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

オフィスビルや商業用不動産などに投資する日本のREIT(不動産投資信託)を主な投資対象とする。

当社ファンド一覧(要改善ファンドへの該当はなし)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	eMAXIS Slim 国内リートインデックス	2019/10/31	152	■
2	eMAXIS 国内リートインデックス	2009/10/28	149	■
3	J-REITインデックスファンド(ラップ向け)	2015/04/30	4	■
4	MAXIS Jリート・コア上場投信	2018/04/16	547	■
5	MAXIS Jリート上場投信	2014/02/24	1,903	■
6	MAXIS 高利回りJリート上場投信	2017/10/10	325	■
7	三菱UFJ <DC> J-REITインデックスファンド	2012/01/10	25	■
8	三菱UFJ <DC> J-REITファンド	2007/12/07	155	■
9	三菱UFJ Jリートオープン(3ヵ月決算型)	2004/06/22	580	■
10	三菱UFJ Jリートオープン(年1回決算型)	2013/11/29	81	■
11	三菱UFJ Jリートオープン(毎月決算型)	2010/10/25	51	■
12	三菱UFJ 国内リートインデックスファンド	2022/10/03	1	■
13	ラップ向けインデックス f 国内リート	2021/04/16	18	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内REITカテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

09 国内債券・中長期型

対象ファンド数 当社15ファンド/業界全体139ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド15本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド1本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客様本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(各ファンドの運用状況については当社ホームページ内の個別ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
0.5	▲1.8	▲0.9	0.3	0.35

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

日本の国債、社債、資産担保証券のうち、平均残存期間が3年以上のものを主な投資対象とする。当カテゴリのポートフォリオの金利変動リスクは、国内債券・短期型に比べて高めとなる。

当社ファンド一覧(網掛けは要改善ファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	eMAXIS Slim 国内債券インデックス	2017/02/27	213	■
2	eMAXIS 国内債券インデックス	2009/10/28	89	■
3	国内債券インデックスファンド(ラップ向け)	2020/03/02	21	■
4	ジャパン・ソブリン・オープン	2004/06/11	87	■
5	ジャパン・ソブリン・オープン(資産成長型)(愛称:ジャパソブN)	2013/11/21	27	■
6	日本超長期国債インデックスファンド(ラップ向け)	2020/12/28	24	■
7	ファンド・マネジャー(国内債券)	2007/10/31	192	■
8	三菱UFJ DC国内債券インデックスファンド	2002/02/05	1,166	■
9	三菱UFJ <DC>日本債券インデックスファンド	2001/12/05	55	■
10	三菱UFJ <DC>日本債券ファンド	2001/12/07	19	■
11	三菱UFJ 国内債券インデックスファンド	2009/02/02	24	■
12	三菱UFJ 国内債券インデックスファンド(確定拠出年金)	2012/10/29	540	■
13	三菱UFJ 日本国債ファンド(毎月決算型)	2010/09/30	75	■
14	ラップ向けインデックス f 国内債券	2021/04/16	78	■
15	ラップ向け日本超長期国債インデックスファンドII	2022/01/27	1	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内債券・中長期型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

三菱UFJ <DC> 日本債券ファンド

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。
<https://www.am.mufg.jp/fund/928194.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- わが国の公社債を実質的な主要投資対象とし、わが国の公社債の指標であるNOMUR A - B P I 総合をベンチマークとし、ベンチマークを上回る投資成果をめざします。
- 日本債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債に投資します。ポートフォリオのデュレーション*はベンチマークの平均を中心に調整します。デュレーション調整は主としてファンダメンタルズ分析に基づく中期的な金利見通しに沿って行います。銘柄選定は信用リスクと金利スプレッドを定量的・定性的に分析して行います。
- *デュレーションとは、債券の投資元本の回収に要する平均残存期間や金利感応度を意味する指標です。この値が大きいほど、金利変動に対する債券価格の変動率が大きくなります。

2 投資成果(運用成績)の悪化要因

- 下表に記載の運用期間において、カテゴリ平均やベンチマークであるNOMUR A - B P I 総合を下回る投資成果となりました。
- イールドカーブ戦略(利回り曲線の形状変化や歪みの修正をとらえる戦略)や銘柄選定は功を奏したものの、ベンチマーク対比のリスク水準がやや低かったことなどもあり、当ファンドはベンチマークを下回る投資成果となりました。また、マイナス金利政策などによって主要投資対象である国内公社債の利回りが低水準(商品性要因)に止まったことも、投資成果の悪化要因となりました。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 市場分析や景気分析の精緻化を図りマーケット見通しの確度を高めることでベンチマーク対比のリスク水準を引き上げ、運用改善に努めてまいります。また、国内公社債の利回り水準等を勘案の上、商品性の改善も検討してまいります。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、国内債券・中長期型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンやベンチマークであるNOMUR A - B P I 総合を多くの期間で下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
三菱UFJ <DC>日本債券ファンド	2001/12/07	19	▲0.1	▲2.3	▲1.4	0.1	0.7	0.68
国内債券・中長期型カテゴリ平均			0.5	▲1.8	▲0.9	0.3	0.8	0.35
NOMUR A - B P I 総合			0.5	▲1.6	▲0.8	0.5	1.2	

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮しておりません。

※国内債券・中長期型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売上の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※NOMUR A - B P I 総合は、国内債券市場の値動きをご説明するために記載しており、当ファンドのベンチマークです。指数については巻末の【当資料で使用している指数について】をご覧ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

10 国内債券・その他

対象ファンド数 当社1ファンド/業界全体8ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド1本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(各ファンドの運用状況については当社ホームページ内の個別ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
3.1	2.7	1.0	0.6	0.44

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

日本の債券を主な投資対象とするものの、他の国内債券のカテゴリに該当しないポートフォリオに適用される。例としてインフレ連動債や変動利付債を主要投資対象とするファンドなどが挙げられる。

当社ファンド一覧(要改善ファンドへの該当はなし)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	eMAXIS 国内物価連動国債インデックス	2014/11/06	46	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内債券・その他カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

11 国内債券・短期型・公社債投信

対象ファンド数 当社12ファンド／業界全体74ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド12本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。
(各ファンドの運用状況については当社ホームページ内の個別ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
0.1	0.0	0.0	0.0	0.03

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

日本の国債、社債のうち、平均残存期間が3年未満のものを主な投資対象とする。当カテゴリのポートフォリオの金利変動リスクは、中長期の国内債券・公社債投資信託に比べて低めとなる。このカテゴリに分類されるポートフォリオは、信託約款上、株式には一切投資できず、債券や短期金融商品を中心に運用する公社債投信に限定される。

当社ファンド一覧(要改善ファンドへの該当はなし)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	追加型・公社債証券投資信託(1月設定)	1961/01/31	4	■
2	追加型・公社債証券投資信託(2月設定)	1961/02/24	8	■
3	追加型・公社債証券投資信託(3月設定)	1961/03/24	3	■
4	追加型・公社債証券投資信託(4月設定)	1961/04/24	6	■
5	追加型・公社債証券投資信託(5月設定)	1961/05/24	3	■
6	追加型・公社債証券投資信託(6月設定)	1961/06/24	5	■
7	追加型・公社債証券投資信託(7月設定)	1961/07/24	4	■
8	追加型・公社債証券投資信託(8月設定)	1961/08/24	6	■
9	追加型・公社債証券投資信託(9月設定)	1961/09/22	3	■
10	追加型・公社債証券投資信託(10月設定)	1961/10/20	3	■
11	追加型・公社債証券投資信託(11月設定)	1961/11/20	6	■
12	追加型・公社債証券投資信託(12月設定)	1961/12/20	7	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内債券・短期型・公社債投信カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

12 国内短期金融資産

対象ファンド数 当社7ファンド/業界全体40ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド7本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(各ファンドの運用状況については当社ホームページ内の個別ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
▲0.0	▲0.1	▲0.1	▲0.0	0.07

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

オーバーナイト・コールや、コマーシャル・ペーパーなど日本の短期金融市場を主な投資対象とする。主に、他のファンドに対し投資資金を一時的にプールしたり、流動性を確保したりするために運用される。

当社ファンド一覧(要改善ファンドへの該当はなし)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	GRANNEXT マネープールファンド	2021/01/19	5	■
2	MUFG ウェルス・インサイト・ファンド(マネープール)	2021/05/25	0.1	■
3	日本株スタイルセレクトオープン(ビッグ・ウィング・ワン) BWマネープールファンド	2000/05/02	0.1	■
4	マネー・プール・ファンドVI	2011/06/17	0.5	■
5	三菱UFJ 新興国高利回り社債ファンド 通貨選択シリーズ<マネープールファンド>(愛称:グローイング・スター)	2011/09/21	0.03	■
6	三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ<マネープールファンド>	2009/04/28	0.4	■
7	三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ<マネープールファンドA>(愛称:スマートスター)	2013/10/15	1	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内短期金融資産カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

当資料に関するご留意事項等

当資料に関してご留意いただきたい事項

- 当資料は、三菱UFJアセットマネジメントのプロダクトガバナンス活動に関して当社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- 当資料は勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。販売会社は当社ホームページでご確認いただけます。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご留意ください。

当資料で使用する指数について

- 東証株価指数(TOPIX):東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。
- Russell/Nomura Small Cap インデックス:Russell/Nomura Small Cap インデックスの知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティングおよびFrank Russell Companyに帰属しています。また、この両社は当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではありません。
- NOMURA-BPI総合:NOMURA-BPI総合は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社の知的財産であり、運用成果等に関し、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は一切関係ありません。

モーニングスター・カテゴリについて

©2024 Morningstar. All Rights Reserved. ここに含まれる情報は、(1) Morningstarおよび/またはその関連会社またはコンテンツ提供者の専有財産であり、(2) 複製、改作または配布してはならず、(3) 正確性、完全性または適時性を保証するものではなく、(4) 投資、税務、法務あるいはその他を問わず、いかなる助言を構成するものではありません。ユーザーは、この情報の使用が、適用されるすべての法律、規制、および制限に準拠していることを確認する責任を単独で負います。Morningstarおよびそのコンテンツ提供者のいずれも、この情報の使用から生ずるいかなる損害または損失についても責任を負いません。過去の実績は将来の結果を保証するものではありません。

設定・運用

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会/一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

三菱UFJアセットマネジメントのお問い合わせ先

お客さま専用フリーダイヤル **0120-151034** ホームページアドレス <https://www.am.mufg.jp/>
(受付時間/営業日の9:00~17:00)